

令和4,5年度 第2回まちづくり審議会 景観専門部会 概要

- 日 時 / 令和5年1月23日(月曜日) 9:00~11:00
- 場 所 / 長岡京市役所 南棟3階 第1委員会室
- 出席委員 / (委員) 佐伯委員(会長)、中小路委員、澤田委員
(臨時委員) 平尾委員、藤本委員、栗山委員、山口委員、武田委員
- 欠席委員 / なし
- 事務局 / 八木建設交通部長、[都市計画課] 廣課長、西小路係長、小橋技師
- 傍聴者 / なし
- 議 題 / 長岡天神駅周辺における都市景観形成の検討について
第2回 検討対象・視点場について
- 主な意見

<検討対象・視点場について>

- 西山の眺めへの配慮が必要な検討対象エリアとして、JR 東口エリア、サントリー工場エリア、西山天王山駅エリア、中心市街地エリアの4地区を選定した。
- 今回検討対象外とした近隣商業地域内の商店街エリアでも、敷地の合筆により高層マンション建設等の可能性があるため、検討中のガイドラインの適用地域については改めて検討する。

<第3回専門部会の資料について>

- 中・遠景の色彩を検討する際には、西山体育館や長岡天満宮の鳥居前からの見え方を考慮する必要があり、検討材料として、これらを視点場とする写真等を準備する。
- 近景の色彩を検討する際には、天神通りに加えてアゼリア通り(市役所前)についても検討する必要がある。
- 色彩の分節については、単に色を塗り分けるだけにならない方が良い。市の沿道景観で決まっている断面設定や他市事例などで、高層部のセットバックなどの分節手法を織り交ぜて検討してはどうか。(現行基準、ガイドラインの説明)
- 沿道景観という視点では、沿道の奥側にかかる20mの高度地区を基準に色彩の分節を行うのは妥当とは言えない。

- 色彩の塗り分けでは、低層部はまち並みや緑と調和する低明度、高層部は空を背景とした高明度に設定する事が多い。今回は遠景観として西山の緑を背景とするため明度設定が重要となる。
- 事例として、一つの建物内に明度差の強いものが入ると、周囲から見た時に明らかに目立つため、メインカラーとサブカラーの明度差を抑えることも考えられるのではないか。

<その他>

- 市の色彩計画という視点では、長岡天満宮や光明寺などを周辺エリアからどう見せるかということも重要。
- 検討エリアと長岡天満宮を同時に望む中景写真を参考資料として準備する。
- 建物の高さ規制については、昔からある課題でもあり、専門部会で検討はしないが、まちづくり審議会に対して高度地区の設定に関する検討の必要性について発信する機会もある。